

40年以上に渡り、修養団で数々の企業研修を経験し、現在では所長を務められている武田数宏先生に、今、若者に伝えたいことを伺いました。

「困難には意味があると受け止め、いつかは乗り越えなければならぬ壁がある」と踏ん切りをつけること

生きていけば、誰しも壁にぶつかることはありますよね。面白いのは、壁があつて乗り越えていけない、ぶち壊していけないという時にも、必ず自分が、スポットと入れの小さなトンネルのような抜け道が近くにあるんです。そこを通り抜けると、別に壁にぶつからなくても、楽に向こうのステージに行けることがあります。

でも、それを繰り返していくと、いつか更に大きな壁ができる、つまりチャレンジしなきゃいけない状況がやってきます。目の前に来ることは、いつかは乗り越えなきゃいけないんだなというように、踏ん切りをつける。

自分の周りに来ることはなんか意味があるんだなって受け止める心が大切なのだと思います。

修養団が、若い人にこそ伝えたいこと

先輩社員が導くこと

登山をして、八合目まで登った人が、二合目までしか登れない人に、どうやって山の素晴らしさを伝えるか、登ってもらえるのか？難しいですね。その時には、八合目まで登った人が、二合目までしか登れない人に、こんな素敵な景色が見えるよ、こんなことを乗り越えたら、素晴らしい気持ちで体感できるよ、ということ伝えていくことが重要なのだと思います。八合目で待っているだけでなく、二合目まで降りて、手を携えて一緒に行こうって、協力するっていうか、背中を押すというか。先輩たちがチャレンジする姿を見せることが、チャレンジを躊躇してしまう人の助けになるのではないかと思います。今は新入社員の彼らも、日々の小さなチャレンジを通して、来春、先輩になったときに、後輩を勇気づける姿を見せてもらえたらと思います。

2025 10.30 ^{Thu.} — 11.1 ^{Sat.}

※30日 14:00 集合、1日 14:00 解散です

新たな仲間と、心を磨く3日間。

伊勢心の稽古



集团生活、水行、参拝、掃除。
昭和ですか？そんなことして会社辞めませんか？
いえ、今の時代だからこそ、求められています。
満足度 96%、伊勢研修のヒミツを大公開！



料 金

新入社員研修
ご参加企業 **¥77,000** (税込) / 人

その他の企業 **¥82,500** (税込) / 人

経営者・人事の皆さまのオブザーバー参加も
お待ちしております。

※上記と同一料金を頂戴いたします。

会 場

公益財団法人
修養団

三重県伊勢市
宇治今在家町 153

0596-25-0265

別紙の F A X 送信用のお申込み用紙をご利用下さい。お申し込みをいただいた後に弊社から確認のお電話をさせていただきます。その後、メールにて場所等の詳細なご案内をお送りいたします。

※ご参加をキャンセルされる場合は、開催 2 週間前【10月16日(木) 17:00】までにご連絡下さい。それ以降のキャンセルの場合、参加料金の100%をキャンセル料として申し受けますのでご注意ください。

- こちらの費用には、研修費・宿泊費・食事が含まれております。
- 修養団までの交通費及び宿泊費は企業様負担となります。また、移動手段に関しましても企業様にてご手配ください。移動手段でご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

なぜ、伊勢で学ぶのか？

伊勢研修2024 佐藤芳直講座より



“美しさ”には、何か万民に共通する価値があるのだと思います。これを、普遍性と言います。

書かれて2000年が経ち、未だにベストセラーである聖書も、なぜ世界中の人々の心をつかんで離さないかと言えば、そこに書かれているイエスキリストの人生が美しかったのだと思います。

トインビーという世界的歴史学者が、伊勢に来た時に有名な言葉を残しました。トインビーは、伊勢にきて、普遍的価値を感じたと話しています。世界中の宗教に繋がる神聖さをこの場所で感じると話した。世界的歴史学者は、伊勢にこそ、世界的に共有されるべき価値があると話した。

日本の特徴は、世界最古の王朝と、世界最古の文明を持った国であるということ。

長いことが大切ですか？と言われることもありますが、長く歴史を持っていて、それが今でも繋がっているということが大切です。

日本は、百年企業、二百年企業が多く、古い企業が増えても、、、と日本の経営者は仰るのですが、アメリカでは、百年企業をオーバースェンチュリーカンパニーと呼んで、多くの企業が百年を超える経営を目指しています。

どのように、日本はこのような持続可能な社会を作ってきたのか。そのヒントが、伊勢にはあると思うのです。

昨年受講生と共にご参加いただいた 人事担当者の皆様の声



教育業 / 販売課長

職場では見られない社員の姿を知ることができた！

人手不足ですが、**新入社員全員を参加させて良かった**と思える3日間でした。去年・一昨年の新入社員から「伊勢は大変だった」という話ばかり聞いていたこともあり、正直なところ、送り出すのが怖い部分がありました。その怖さもあり、オブザーバーとして参加しました。実際一緒に受講してみると、職場では見られない様な笑顔で、自分の会社以外の方とお話している姿を見ることができ、「あっ、来てよかったな」という風に思いました。

こんな研修を受けられる新入社員が羨ましい！

事前に聞いた中では、「水行が大変だ」という感想は聞いてはいたのですが、実際に経験してみると、もう何を大変と言っていたのか分からないくらい**貴重な体験**をさせていただいた、という思いしかありません。楽しく、と言ってしまうと少し語弊があるのかもしれませんが、**新入社員の時期に、こんなに貴重な体験ができるのは、本当にうらやましい限り**です。新入社員は、受講してすぐには、その有り難さを感じることができないかもしれませんが、きっと5年後、10年後、「あの時、逃げずに伊勢で研修を受けてよかったな。」と思える様な、研修内容だと思いました。



製造業 / 人事担当者



教育業 / 人事担当者

来年も、新入社員はもちろん参加させます。 私も一緒に受講したいくらいです！

参加する前は正直、来年の伊勢研修に新入社員を参加させるかどうかを悩んでいたのですが、今回人事として一緒に参加して、**来年も絶対**お願いしたい、なんなら来年も一緒に受講したいとすら思いました。社内で、ここまで本当に人財教育ができるノウハウはありませんし、費用をかけてでも、参加する意義があると考えております。

経営者・人事担当者のオブザーバー参加も大歓迎！

「伊勢 心の稽古」には、経営者、人事担当者の方々もご参加いただけます。これまで参加された経営者、人事担当者の方からは、このような感想をいただいています。

人事同士のつながりが生まれ、
情報交換ができた時間が大きな財産になっています。

参加した新人・若手社員が、
研修で何を学んだのかをリアルに知ることができ、
伊勢研修の内容と、社内での指導を紐づけられるため、
より深い理解に繋がっているように感じます。

※オブザーバー参加も受講者と同一料金を頂戴いたします。

01 知らないことを否定しない

初日、緊張した面持ちの参加者たちに、まず初めに伝えるのは、「知らないことを否定しない」という言葉です。「開講式」では、このようなことを伝えています。

伊勢で過ごす3日間は、水行をはじめ、皆さんにとって馴染みのない事の連続。不安に思うかもしれないけれども、どうか、知らないことを否定することだけは、しないようにしてください。今の皆さんの姿を、10年前に予想できた人はいないはず。

その成長の過程には、新しく知ることを受け入れ、変化しようとしてきた皆さんがいたのではないのでしょうか。この伊勢研修でも、普段の仕事でも、知らないことを学ぶ姿勢が、この先、皆さんを成長させてくれます。

02 会社に課題があるから辛い？ 課題があるからあなたがいるのです！

入社からしばらく経つと、所属する会社の課題点も見えてくるもの。その時に、「だからうちの会社はダメなんだ」ではなく、「その課題を解決するために自分がいる」と思える皆さんでいてほしい、ということを伝えています。どれだけ輝いて見える会社でも、100点満点ではなく、どこか課題を抱えています。その課題に対して、当事者意識を持つことの重要性を、伊勢研修ではお伝えしています。

伊勢研修で伝えている
Five messages to be conveyed in Ise. Message
5つのメッセージ

03 心を取り出して磨くことはできない。 だから私たちは目に見えるものを磨き、心をみがく。 - 時を守り、場を清め、礼を正す

伊勢研修のテーマは、「心の稽古」。心を磨くといっても、心を胸から取り出して磨き上げることはできません。しかし、時間を守ることや、相手に対して礼儀正しく接することは、誰でもできます。そういった習慣作りを通して、相手の時間を大切に作る心や、相手に敬意をもって接する心を育んでいきます。

04 集団生活を通じて気づく、 当たり前基準の高さ

伊勢研修の3日間で徹底的に指導されるのは、日本人が大切にしてきた秩序と規律です。

スリッパを並べる、時間を守る、列を整えるといった身近なことを大切に、集団生活が進んでいきます。

普段は気にしていなかったけれど、規律と秩序を守って生活することで作られる調和を体感し、会社に戻った後、日々の当たり前基準が高まります。

05 歴史に学ぶ - 私たちの祖先が大切にしてきた、“続ける”ということ

伊勢神宮正式参拝、佐藤芳直の講座を通して、今の日本社会がいかに作られたのか、ということを知っていただきます。

様々なエピソードを学ぶ中で、共通しているのは、日本人は“続ける”ということを中心にしながら、社会を築いてきたということ。研修を行う伊勢神宮でも、「日別朝夕大御饗祭」という行事があります。これは、内宮と外宮、別宮それぞれのご祭神にお食事を奉る神事で、約1500年間変わらない形で毎日朝夕の二度、続けられているものです。20年に一度、社殿を建て替える「式年遷宮」も、社殿が常に若々しく、美しく保たれるという永遠性を求めて実施。変わらないために、あえて「変える」ということを続けてきました。

転職前提と言われる社会の中で、続けるということがいかに尊いのか、ということを経験から学んでいただきます。

伊勢で過ごす、3日間

Three days spent in Ise.

[1日目]

伊勢研修スタート！
初めて経験する3日間に
緊張した面持ちで全員が集合。
まずは、周り打ち解ける
初日です。

開講式

最初のカリキュラムは開講式。伊勢研修の意味や、この研修を通して学んでいただくこと、どんな心持ちで取り組んで欲しいかと共有します。



共同生活スタート！

座学の研修時間だけでなく、食事も睡眠も全員と時間を共有。コロナ禍で集団行動に制限がある中で、学生時代を過ごした受講生にとっては新鮮で貴重な機会。関わり合いの中で思いやりの心を育みます。



会社自慢プレゼンテーション

各企業、自分の会社の良いところや、普段の仕事についてプレゼンします。業種も業界も異なる他社の発表は視野を広げてくれます。例年、この時間でみるみる親睦が深まります。



朝の掃除

毎朝、研修会場を全員で掃除。素手に雑巾を持ち、トイレ・廊下を磨きながら、自身の心も磨く時間です。



佐藤芳直講座

なぜ、伊勢で研修をするのか

世界で一番長い歴史を持つ日本。その歴史の中で、どんな社会を創り上げてきたのか。今の私たちに通ずる、日本人の原点を学びます。



働くとはどういうことか

働かなくても生きていける時代。なぜ働くのか？働くことで果たす自らの役割とは？佐藤芳直から若者へエールを送ります。

若者の質問や悩みにも丁寧に答えます



[3日目]

あっという間に研修最終日。2日前まで緊張しながら対面していた仲間との別れを惜しみながらまとめの3日目も学びます。



伊勢神宮正式参拝

水行の翌日、一般の方は決して入ることが出来ない「内宮御正殿」を特別参拝致します。全員正装で砂利の上で膝をつき、研修で感じたこと、学んだことを振り返りながら、参拝を行います。

赤福本店 朔日餅



毎月1日しか買うことができない朔日餅。「わざわざ買いたい！」と思わせる理由とは何なのか？苦労という付加価値の元、便利さ、DXでは感じられない、真の喜びとは何かを体験します。

MYクレド -半年後の自分へ

研修の最後には、半年後の自分に向け、クレドを決めます。未来を想像し、どんな自分で在りたいかを心に定めます。



[2日目]

緊張の初日を終え、徐々に打ち解けてきた様子。不安っぱいの水行や佐藤の講座に臨みます。

立居振る舞い総点検



“日本一綺麗なお辞儀”を、受講生全員で目指します。時に厳しく、仲間同士で指摘し合いながら、心を揃える時間です。

水行



男性はふんどし、女性は白装束を着、夜の川に入水。水中で自分と向き合い、身も心も清める時間は、一生に一度あるかないかの貴重な経験。受講者にとって最も大変な経験であり、最も変わる機会でもあります。

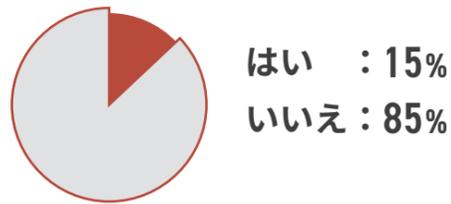
仕事への意義を求める若者が引き続き増加！

「働きたい」と思う若者増・・・仕事は給与以上に得られるものがある理解

問

今後、働かなくても生きていける時代が来た時、あなたは働くことを選択しますか？

コロナ前



「いいえ」の理由

- ・プライベートを充実させたいから
- ・働くことと叱られることや、仕事でのストレスもあるから。それを感じたくないから
- ・趣味を一日中していたいから 等

コロナ後

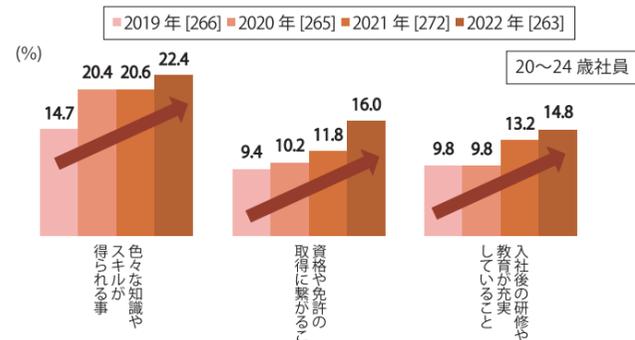


「はい」の理由

- ・仕事をしなければ得られないものがあると思うから
- ・私にしかできないことを見つけたいから
- ・誰かの役に立つことを行いたいから仕事をする
- ・仕事をしなければ怠けてしまいダメ人間になってしまいそうだから

この問いかけは、毎年若者たちに尋ねています。コロナ前までは、業界差はありましたが、圧倒的に「働きたくない (NO)」の答えが多くいました。なんと高いところだと、NO が 95% の業種も。この数字は、コロナを経て逆転し、今では「働きたい」に手を挙げる若者が、どの業界においても半数以上を越えます。仕事には、給与を得る以外の何かがあることを、まだ働く期間が短い若者たちが理解していることを強く感じます。

「仕事を通して成長したい」意識の高まり



コロナ前の 2019 年と比較すると、「色々な知識やスキルが得られること」は 7.7% 増となっている。その他にも「資格や免許取得に繋がること」や「教育制度の充実」を重視する項目も増加しており、「自己成長」に繋がる意識への高まりが分かります。また、他の調査では、「収入」や「休暇」、「通勤の便」等、「働きやすさ」に関する項目は減少傾向にあるようです。

※ パーソル総合研究所調査より

益々広がる世代間ギャップ

上司の“当たり前”が通じない新人 VS “当たり前”を伝えられない上司



ある新人からの相談

初めての店舗配属。お客様にどのように話しかけて良いか分からず、先輩に相談したところ、「あなたが“嬉しい!”と思う接客をすれば大丈夫」と教えてもらいました。私はたくさん話しかけられるのは苦手なため、そのように接客をしていたら、怒られてしまったんです。話しかけなさいって。お客様にも喜んで頂きたい、でも自分が嬉しいと思う接客をすると叱られる、どうしたら良いのでしょうか...

新人が困ってしまう指示 5 選

- ・あなたがされて嬉しいことをしなさい
- ・〇〇会社らしい振る舞いをしなさい
- ・良い感じで仕上げてね
- ・とりあえずやっておいてね
- ・積極的に動いてね

「あなたが嬉しいことをしてね」の指示は間違いなく正しいことです。ただし、経験が浅い新入社員にとっては、何をすることがそれに伝わるのか、具体的にどんな行動が必要かを、細かく伝えなければ、行動にすることができません。若手の指導において重要な「具体性」を先輩上司が説明することを放棄していませんか？
上司先輩の当たり前が、若手にとっては当たり前ではない、その前提に立ったコミュニケーションが不足し、悩む若手が増加しています。

間違いたくない、失敗したくないという思い

研修の中でよく受ける質問

- ・この言葉遣いをしたら相手を不快にさせてしまいますか？
- ・こんな時は、どのように対応したら失礼になりませんか？
- ・こういうシチュエーションではどうしたら良いですか？ 等々

人とのコミュニケーションにおいては、以前より若者たちの中でも大きな悩みでした。これまでは既に起こってしまったことに対して「こんな時に、このように対応したのですが間違いでしたか？」や「もっと良い方法はありませんか」ということでしたが、ここ数年で変わってきていることは、「まだ起きていないこと」に対して、想像して、悩み、事前に質問をする方が増えたということです。いざという時に良い自分でありたい、絶対に失敗したくないという思いが強まっていることを実感します。

人間の成長に向け「真に大切なこと」を「正しく学べる」のが伊勢研修です。情報過多の現代だからこそ、若手だけでなく、先輩上司も学び多い時間になります。

COLUMN

他社で人財育成や接客など、人と接する中で仕事をしてきた経験を持つ、S・Yワークスのキャリア入社組講師が、研修の特徴をお伝えします。

キャリア入社組講師が見る、 S・Yワークスの研修はここが違う！

01

何のために働くのか？

“仕事の目的を理解する”

多くの現場では、人手不足によって「入社後は、できるだけ早く即戦力になってほしい」という願いがあります。そのため、マニュアル通りに手順を伝えること優先した結果、仕事が作業化してしまった現場も少なくありません。

「自分達の仕事は、レジを打ちや、品出しをすること。役割以上の仕事をしているのに、お給料が上がらないから転職をしたい。」こんな悲しい言葉を耳にすることもあるのです。S・Yワークスの研修では「仕事の目的は、お客様と仲間に喜ばれること」とお伝えしております。仕事の目的を理解し、自らが考えて行動する力を育てていきます。

02

人生はありがとうを集める旅路

“誰かに喜ばれる自分を発見する”

研修中は、受講生に“ありがとうカード”をお渡しして、感謝の言葉を綴ったメッセージ交換を枚数制限なく行っていただきます。感謝を伝えるためには、相手の行動をよく観て、耳を傾け、気付く力が必要です。仲間の行動に関心を持ち、自分のそのように生きてみたい。そう考えることが、誰かに喜ばれる自分になるための第一歩です。

03

力相応一番

“自分らしい一番を目指す”

新入社員にとって大切なのは、周りとの競い合うことではなく、まず「自分と向き合う力」です。この研修では、一人ひとりが「自分にできること」「自分の成長」を実感し、小さな成功体験を積み重ねていきます。自分が定めた目標に向かって努力し続ける中で、自信が生まれ、前向きな行動が自然と育ちます。他人と比較するのではなく、“何かで一番になる”を目指す力と自信が、社会人としての基盤となっていきます。

心を育む研修

04

“知識や技術の前に、 人としての土台を育てる”

社会人としてのスタートに必要なのは、業務スキルや知識だけではありません。人としてのあり方、思いやり、誠実さ、感謝の気持ち。そういった「心」が、信頼と長期的な活躍に繋がります。この研修では、挨拶や礼儀、素直な心といった「人として大切なこと」を丁寧に伝えます。仕事の技術だけでなく、人としての根っこを育てることが、働く喜びや自分らしさを築く第一歩となります。

05

群れの学び

“同じ立場だからこそ、響き合い、高め合う”

この研修では、複数の企業の新入社員と一緒に学び合います。社内研修では得られない刺激や視点、同じ立場だからこそ生まれる共感が、互いの成長を促します。自分とは異なる価値観や考え方に触れることで、「自分らしさ」や「強み」にも気づくきっかけとなります。“群れ”の中で個が磨かれ、自分で考え、動く力が自然と引き出されていきます。多様な他者との出会いが、個人の力を引き出します。

キャリア入社組講師



monma kaori

社長総室 門間 かおり

全日本空輸株式会社で客室乗務員として勤務後、化粧品会社の人事部として、採用・育成・研修に携わる。その後、専門学校でビジネスマナーの講師を務め、社会に出る多くの学生に働く意義を伝え、社会人として成長し、飛び立つ姿を見届けてきた。母としての自身の経験も社員教育に活かしている。



suzuki atsumi

人財創造本部 鈴木 富美

東京ディズニーリゾートでの接客経験と、ルイ・ヴィトンジャパンでの販売経験を持つ。ディズニーリゾートでは、2017年「スピリット・オブ・ディズニーリゾート」を受賞。これまでの経験を活かし、販売員や新入社員に向けた研修講師を担当している。